

## 事業概要書

事業名	令和元年台風第 19 号 災害ボランティアコーディネート事業（岩手県釜石市）				
開始日	2019 年 10 月 13 日	終了日	2019 年 12 月 12 日	日数	60 日
団体名 (カウンターパート)	一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校				
担当者名	伊藤 聡	スタッフ人数	4 人		

事業費総額（税込）	469,200 円
CF 事業枠	300,000 円
その他資金	169,200 円

事業目的	令和元年台風第 19 号被害に対する釜石市内における緊急支援活動
事業全体の概要	<p>●<u>三陸ひとつなぎ自然学校とは</u></p> <p>東日本大震災直後の 2011 年 3 月から、釜石市鶴住居川流域を拠点に被災地支援活動を開始。緊急支援として、地域外の支援団体と地域をつなぐボランティアコーディネート、あそび場を失った子どもたちの居場所づくり、避難所の物資配達・炊き出し、避難所や在宅避難地域の方の憩いの場づくり、ボランティアと観光を組み合わせたボランティアツーリズムなどの活動を展開。震災から約 1 年後の 2012 年 4 月 1 日、任意団体「三陸ひとつなぎ自然学校」を設立（2013 年 5 月に一般社団法人化）し、現在は「地域のために立ち上がり、挑戦する人が多いまち」の実現を目指して活動を展開している。</p> <p>●<u>取り組むべき課題</u></p> <p>令和元年台風第 19 号の被害は日本全国広域に渡っているため、各地で多くのボランティアを必要としている。岩手県においても沿岸地域を主として被害が各地で発生していることから、ニーズに対してのボランティア不足が深刻となっていることは、釜石市でも同様の課題である。当団体は 2011 年の東日本大震災、2016 年の台風 10 号発災時も直後から現地でのボランティアコーディネートを核とした緊急支援活動を行なっている。他地域からの支援が見込めないからこそ、これまでの活動で培った関係人口コミュニティや地元をはじめとした若者の力を、被災ニーズとマッチングさせることで、早期の緊急支援フェーズの脱却を目指す。</p> <p>●<u>パートナー協働プログラム対象事業</u></p> <p>①活動現場におけるボランティアコーディネート          これまでの災害支援活動のノウハウを活かし、作業時の役割分担や進捗管理を始めとしたボランティアコーディネート全般</p> <p>②ボランティア募集          すでにつながりのある個人・団体・大学・企業に対しての募集活動</p>

	<p>釜石高校生徒会と連携したボランティア企画の実施（支援活動、募金活動等）</p> <p><b>③支援者を対象とした宿泊場所「さんつなハウス」の運営</b></p> <p>釜石外から訪れる支援者向けの宿泊場所として施設を活用</p> <p>※さんつなハウス：2011年3月より支援者の宿泊場所としてボランティアセンターを現在も継続して運用中。約10名が滞在可能で、お風呂・トイレ・布団等の宿泊に必要な機能は備えている。</p> <p><b>●期待される効果</b></p> <p>被害が日本各地広範囲に渡っていることから遠方からの支援者が見込めないが、これまでの活動で培った関係人口コミュニティや、地元の高校生をはじめとした若者の力を集めることで、早期の緊急支援フェーズの脱却が見込める。</p> <p>また副次的な効果として、今後も同様の災害が数年おきに発生することが考えられることから、災害発生時には地元の若者がまず駆けつけるという機運づくりや、そのための連携体制の構築にもつなげることを見込んでいる。</p>
事業内容(事業種別（コンポーネント）ごと)	裨益者（誰が、何人）
①活動現場におけるボランティアコーディネート	ボランティア （10人×4日×8週間 =のべ320人）
②ボランティア募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人 （3人×2日×8週間= のべ48名）</li> <li>・団体等 （20人×5団体=100 人）</li> <li>・地元高校生 （15人×2回=30人）</li> </ul>
③支援者を対象とした宿泊場所「さんつなハウス」の運営	ボランティア （3人×2日×8週間= のべ48人）